



— 巻 頭 言 —

核医学技術最新事情

庄 司 安 明

秋田県立脳血管研究センター 放射線科

FDG-PET 検査，核医学専門技師認定制度と核医学技術は，その専門性を問われる時代に直面した感がある。PET 検査は当初，脳循環代謝，脳の糖代謝および心筋の糖代謝等の測定および臨床応用を目指したアミノ酸，神経受容体リガンドの合成等，研究的な要素が大きかった。しかし，PET 検査は，その有用性が認められ平成 8 年 4 月 1 日には，酸素¹⁵ガス剤による PET 検査，平成14年 4 月 1 日には，フッ素 ¹⁸FDG による PET 検査がそれぞれ保険適用となった。特にがんの早期発見にその有用性が認められた FDG-PET 検査による各種腫瘍の検索およびがん検診は，近年急速に普及してきている。

これに伴い医療従事者の被ばくが現在および将来においても問題となることが必須である。また，陽電子断層撮影診療用放射性同位元素に係る放射線障害の防止に関する「予防措置」には，「陽電子断層撮影診療に関する所定の研修を終了し，専門の知識および経験を有する診療放射線技師を，陽電子断層撮影診療に関する安全管理に専ら従事させること」とある。診療放射線技師に義務が生じており立場が認められた感がある。専門知識の吸収，経験の蓄積および放射線安全管理の遂行は，もとより核医学技術者の目指すところである。また，医療従事者の被ばく低減対策を充分考慮した放射線安全管理を行う必要がある。

これらを遂行する為には，日本核医学技術学会，日本放射線技術学会，日本放射線技師会および関連研究会の研究発表等を通じて自己の研鑽が重要と考える。

また，日本核医学専門技師認定機構による核医学専門技師認定制度が発足し，この夏には認定試験が行われ核医学専門技師が誕生する予定である。核医学専門技師の役割は，日本核医学専門技師認定機構に明確に記されている。つまり，1) 核医学検査の放射線安全管理や医療安全対策を企画・立案し，適切に実行すること。2) 専門的な知識と技術を高め，高度な核医学検査を円滑に行うこと。3) 核医学検査における診断，予後，治療，予防の必要性の把握。4) 核医学診断に役立つ科学的根拠に基づく医療情報を提供すること。5) 医療情報として提供する検査データの管理方法および妥当性に対する判断力を保有する。6) 核医学検査における核医学検査機器および関連機器・器具等の品質保証・品質管理を修得し，実行すること。と多岐に渡っており核医学専門技師の資質・向上が求められている。

これらの要求を全うすることで，核医学技術を患者へ還元できるものと確信する。